

Position Paper

国名:

国旗

メンバー:

1. 自国の基本情報

首都	
人口	
政治体制	
政治中心者	
気候	
主な宗教	
言語	
内政状況	
所属する国際 地域機構	
1人当たりの GDP	
貧困率	

主要産業	
主要貿易物	(輸入)
	(輸出)
主要貿易相手国	
平均年収 (ドル換算)	
援助を受けている またはしている 主要相手国	
基本的な外交方針	

農業従事者人口	(%)
主要農作物	
食料自給率	
穀物生産量	
主な輸入食物	
主な輸出食物	
主食	
飢餓人口	
栄養不足人口	
栄養不足蔓延率	
5歳未満児死亡率	
1日の食料消費量	
肥満率	
肥満人口	

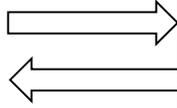
自国周辺略地図

リサーチして感じたこと

2. 条文づくり

☆自国が抱える問題点(現状)

☆自国の今後の方向性(理想)



☆現状と理想との間を埋めるための解決策

☆解決策を基にした条文(3個以上)

○ 国連総会 1 日目の流れ

【国連総会 1 日目を迎えるまでの状況】

- ・地域別クローズ案が完成している。
- ・地域別クローズに含まれているいないにかかわらず、自国として実現させたい最終クローズ案が 1 つ決定している。

【国連総会 1 日目の目標】

- ・各地域クローズを出発点として、ワーキングペーパー (WP) を完成させ、これを提出すること。

<ワーキングペーパーとは>

- ・国連総会 2 日目に採決にかける決議案の原案のこと。
- ・各国大使が自国の主張に関しての意見を記述し、議場に公表するもの。
- ・互いに矛盾しない複数のクローズ（条文）を含み、議題を包括的に解決に導くことのできる総合的な対策案となっているもの。

<ワーキングペーパーの提出条件>

- ・地域にかかわらず 18 カ国以上がスポンサー（共同提案国）となっていること。
- ・1つの国は、いずれか1つの WP のスポンサーにしかねれない。

<ワーキングペーパー提出までの流れ>

- ・トレニア 2 台の上に MacBook を 6 台配置したワーキングブースを、8 カ所設置する。
- ・WP 提出を目指すグループは、議長団に申請してワーキングブースを 1 つ借りる。
- ・Google ドキュメント文書として WP の作成を開始。（まずはサマリーから）
- ・WP の冒頭部分に、その時点でスポンサーになっている国のリストを明記する。
- ・WP のサマリーを iPad で提示しながら交渉を進め、スポンサー国を集める。
- ・スポンサー国の大使を、WP ドキュメントの共同編集者として招待する。
- ・WP 提出締め切りまでに、スポンサー各国の大使と協議しながらサマリーを具体的な条文としてまとめていく。
- ・WP 条文化の過程で、当初のスポンサー国が抜けて他の WP グループに移動することも可。脱退する国は、その旨を WP グループの中心国大使に宣言し、WP のスポンサーリストから外してもらうこと。
- ・WP 作成途中で、スポンサーが集まりそうにないグループは、WP 提出を断念してもよい。その時点でワーキングブースを離れ、議長団にグループの解散を宣言する。また、所属していた各国は、自国の判断に基づき、他グループとの交渉を開始できる。
 - ・できあがった WP は、スポンサーリストに 18 カ国以上あることを確認した上で、全体で共有される Google ドライブ上にアップし、公開する。
 - ・WP のドキュメントが公開された時点をもって、WP の提出とみなす。

【Time Schedule】

- 10:00～ 2、7 組移動開始 ※各国は、待ち時間を使って最終打ち合わせを行っておくこと
- 10:05～ 3、6 組移動開始
- 10:10～ 4、5 組移動開始
- 10:15～ 1、8 組移動開始
- ～10:30 集合完了
- 10:30～11:10 地域クローズ基調講演（各地域 5 分以内）
- 11:10～11:20 休憩（講堂内）
- 11:20～11:30 会議の進め方の確認
- 11:30～11:35 会議の開会宣言、出席確認（ロールコール）
- 11:35～12:30 討議（非公式討議＝ロビー活動）開始
- 12:30～12:40 ワーキングペーパー提出締切、提出された WP の確認・タイトル読み上げ、
会議の閉会宣言

○各国クローズ例

ブラジル

アマゾンの熱帯雨林などが森林伐採により減少し、世界的な気候変動の恐れがあるので、農業が可能な環境を守るため、先進国はアマゾン保護に全面的に協力する。

アルゼンチン

灌漑・焼畑などの地力が低下する農業方法の横行が問題になっており、安定した食糧生産・輸出が困難になるので、持続可能な農業を普及するため、先進国は途上国に関連の技術を提供、経済援助をする。

コロンビア 生産した作物を流通するルートが存在せず、食糧を供給が難しい地域が数多く存在するので、農業関連の流通を円滑にするため、その地域に先進国はインフラ開発に協力する。

○Working Paper 各国クローズ例

Working Paper -B-

Sponsor: Azerbaijan Republic / Republic of Korea / Socialist Republic of Viet Nam / Federated States of Micronesia / Republic of Honduras / Republic of the Fiji Islands / Kingdom of Norway / Kingdom of Saudi Arabia / Republic of Haiti / Republic of Guatemala / New Zealand / Independent State of Samoa / Republic of Vanuatu / United Kingdom / Islamic Republic of Iran / Republic of Lebanon / Republic of Nicaragua / Republic of Bulgaria / Czech Republic / Hashemite Kingdom of Jordan/Panama/Spain/Romania/Indonesia /Thailand / Romania / /Montenegro /Ratbia/ India/ Israel Republic of India State of Eritrea State of Israel Dominican Republic Greece French Republic Republic of Austria Germany Malaysia Estonia

1,発展途上国が発達した農業技術を自国の農業に取り入れて、生産能力を向上させることにより貧困率を減少させるためにFAOと各国が協力し、またFAOの働きを強化して技術交流の効率化を図る仕組み(機関)を導入する

(Republic of Korea Socialist Republic of Viet Nam Federated States of Micronesia Kingdom of Saudi Republic of Australia Kingdom of Norway Republic of the Fiji Islands Independent state of Samoa Republic of Haiti Republic of Honduras Republic of Guatemala Azerbaijan Republic New Zealand United Kingdom Islamic Republic of Iran Republic of Austria)

2,小規模農家が自立して利益を生み出していけるように小規模農家の協力体制を作ることを推進する,小規模農家同士で集まり、その自国の土地にあった作物を作り、他国と共有することによって利益を生み出す。

(Republic of Bulgaria Czech Republic Romania)

3,世界的に増加している耕作放棄地を有効活用するため、国際的に統一された農地貸借のシステムを

つくる

(Republic of Lebanon)

4,主に若年層・難民をターゲットとして農業教育の拡充を図り、農業従事者の増加を促進、援助することを推進する

(Republic of Vanuatu Hashemite Kinn nbngdom of Jordan Republic of the Fiji Islands)

5,包括的に食糧問題を解決していくための世界食糧安全保障サミットの年一回開催を提案する

(Republic of Nicaragua)

○ (配布資料) Working Paper 検討シート (一部)

グループ	クローズ	賛成	条件付き賛成	反対	
WP-A	1	世界中の技術(土壌、穀物に関する)を専門の機関に集めて商品化し、それを技術を求める国に売る。また、そこで得た利益の一部を技術提供国に戻す。また、その専門の機関で技術を新たに開発する。それをまた同様に商品化する。			
	2	もっと便利な海上輸送手段を作るため各国が話し合う。			
	3	農業従事者の拡大と技術者の育成への協力。			
	4	食料自給率の向上を目指し、アジア諸国の相互発展に貢献する組合を結成する。(農業また農業関連分野における地域に提供することにより、その代わりに資源の見返りしても良い。さらに農業技術の豊富な地域にも技術提供してもらい、中東地域の協力をはかる。)			
	5	難民を受け入れてもらう代わりに金銭的・技術的に支援を行う。			

グループ	クローズ	賛成	条件付き賛成	反対	
WP-B	1	発展途上国が発達した農業技術を自国の農業に取り入れて、生産能力を向上させることにより貧困率を減少させるためにFAOと各国が協力し、またFAOの働きを強化して技術交流の効率化を図る仕組みを導入する。			
	2	小規模農家が自立して利益を生み出していけるように小規模農家の協力体制を作ることを推進する。			
	3	世界的に増加している耕作放棄地を有効活用するため、国際的に統一された農地貸借のシステムをつくる。			
	4	主に若年層をターゲットとして農業教育の拡充を図り、農業従事者の増加を促進、援助することを推進する。			
	5	包括的に食糧問題を解決していくための世界食糧安全保障サミットの年一回開催を提案する。			

当日までに、しておくこと

- ① 最終WPIに自国のクローズが間違いなく文面化されているかを確認する。
- ② 各WPにあるクローズ1つ毎に、自国としての態度を決めておく。(該当欄に○をつける)
WPが決議案となり本会議で採択されると、その中にある全ての条項について承諾したことになります。
→「条件付き賛成」の場合、その条項の著作権国をグループリーダーに確認して、修正の交渉をおこなう。
→「反対」の場合、削除できないかの交渉をおこなう or 成立阻止のため反対国を集める、をおこなう。
- ③ グループごとに集まって、新たにコンパインされてきたクローズへの理解を深めておく。
他グループのWPを見た感想を共有し、自グループ内での役割分担を決めておく。
→自国の決議案を完成させるチーム
→他国の決議案を研究し修正の交渉をおこなうチーム
→自WPの決議案を他WPグループに賛成してもらえよう、他グループの各国大使の所へ交渉に行くチーム
(情報をできるだけ集めるため、一つの国の中に異なるチームに所属するメンバーがいた方がいい)

○ 国連総会 2 日目の流れ

9 : 00 ~ 2,7 組移動開始

9 : 05 ~ 3,6 組移動開始

9 : 10 ~ 4,5 組移動開始

9 : 15 ~ 1,8 組移動開始

※待っている間に国ごとに他のグループの WP へのコメントを共有しておく

~9 : 30 集合完了 (軽く休憩等もしておいてもらう)

9 : 30 ~

プロシージャー (会議の流れ) の確認、質疑

9 : 50 ~

グループごとに集まって新たにコンバインされてできたクローズへの理解を深めるとともに他のグループの WP を見た感想を共有、

グループ内での役割分担を決める (自国の決議案を完成させる、他国の決議案を理解し修正する、自分たちの WP の決議案内容他 WP グループに賛成してもらえよう、他グループの国の大使に交渉しに行くなど。一つの国の中にどちらもいたほうがいい)

←最終 WP に自国のクローズが間違いなく文面化されているかの確認。他グループの WP で賛同できないクローズをピックアップし妥協点を考える。なるべくみんなが納得できるものに。

10:20 ~ 休憩

10:30 ~ 校長先生のお話

10:35 ~ 前回のビデオ

10:40 ~ 会議の再開を宣言、出席確認 (ロールコール) ←正式名称でのロールコールにするためにわかるように徹底しておく

10:45 ~ 11 : 10 公式討議・非公式討議 (着席)

2 グループの代表が公式討議として 3 分以内のプレゼン

5 分間の非公式討議 (着席討議)

を 2 回繰り返す

←改めて他グループに対して WP のアピールをし、疑問点があればここで。

11 : 10 ~ コーカス (非着席討議) の開始 ←交渉重視

11 : 30 ~ 11 : 40 一度着席し、会議の進行状況を確認、国ごとに作戦会議

←外交した上での対立軸をグループで共有し作戦を練る。

11 : 40 ~ 非着席討議の再開←最高の WP 完成のため最後まで交渉を行う。全員合意での可決を目標に。

12 : 00 決議案提出締め切り

12 : 00 ~ グループの代表者が自分たちの決議案について 1 分 30 秒のスピーチ→投票

を 4 回、3/4 以上の賛成で決議案の可決

※決議した結果をまとめ、海外フィールドワークの際に、チョウドリ元国連事務次長の前でプレゼンをさせていただいた。

OSGH 報告会での生徒の発表 PowerPoint（抜粋）

関西創価高校 模擬国連

Jun. 2016~Nov. 2016



1

模擬国連会議 1 日目に向けて

1. 模擬国連の紹介
2. グループ割
各クラスを地域ごとに割り振る
各クラス12グループ程度（12ヶ国）に分かれる
3. 自国についてリサーチ
自国の基本情報、自国が抱える問題について調べる
4. クローズ作り

2

ポジションペーパー

リサーチの助けとなるもの
基本的な自国の情報を調べる
例) 食料自給率、主要産業、外交など



↓

自国の強み、また自国が抱える問題を知る
どうすれば解決できるか？ 解決策を考える

3

クローズ（政策）

1. 各国3個までクローズつくる
2. 地域討議
 - a. 各国がクローズ紹介する
 - b. 質疑応答
 - c. 似ているクローズは合体させる
 - d. 8個までに絞り、地域クローズとする
3. **Google classroom** 内で、全クラスのクローズ閲覧可能
4. 他のクラスの地域クローズを見て、自国の利益となるか、また協力できそうな国、対立しそうな国調べる

4

模擬国連会議 1 日目

目標 ワーキングペーパー（仮決議案）の作成、及び提出

1. 各クラスが、地域クローズをプレゼンする
2. グループ形成
3. Macを使用し、共有ドライブ内のワーキングペーパーのフォーマットをコピー
*地域クローズ、また地域クローズに入れられなかった自国のクローズを入れる
4. **18ヶ国以上**のスポンサー(共同提案国)を得たワーキングペーパーは、議場に提出する

模擬国連会議 2 日目に向けて

1. ワーキングペーパーに、自国のクローズが入っていることを確認
2. ワーキングペーパー内でクローズを合体させ、6~8個のクローズまで絞る
3. 他のグループのワーキングペーパーを **google classroom** 内で見て、コメントを書きこむ
*他のワーキングペーパーの内容が自国にとって不利益となるか確認、質問等の準備

模擬国連会議 2 日目

目標 決議案を作り、可決する

1. ワーキングペーパーを作成したグループ内で作戦会議
2. 公式討議
3. 着席討議(質疑応答)
4. 非着席討議
5. 決議案提出
6. **投票 3/4以上の賛同国で可決**

関西創価高校のMUNを通して

世界で起きている問題を、どうすれば解決できるのか？
クラス、また学年全体で、リサーチや議論

↓

多角的な視野に立ち、情報を発信する力
リーダーシップ
国際問題を身近なものとして捉えられる

○論文・英語サマリー

GRIT 学年模擬国連で学んだこと、調べたことについて自分自身のクローズ（提言）を考え論じた。論文のタイトルは「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」である。冬休みの前にループリック表を用い、各国のグループ員と相談しながら、各自立案、構成を考える。それをふまえ、冬休みを使って、論文作成を行った。

説明の際には、「NHK 国語表現」「論文作成法」の動画を参考にし、模擬国連の国別のグループに分かれ、代表者が持参した Position Paper・国別クローズ案をもとに、手元の用紙に必要事項を書き